

授業科目名・形態	精神科ソーシャルワーク論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	古川博文	開講期	3年・前期	単位数	2

【授業の主題と目標】

精神科ソーシャルワーク論は、精神保健福祉士の相談援助の定義・理念・形成過程・体系・権利擁護、精神保健福祉士と他の専門職の概念を基本的な理論を学ぶ。また、社会福祉士との共通性を理解しながら、精神保健福祉士がかかわる多職種連携や相談援助の基礎を理解する。

【到達目標】

- 1) 精神障害者の役割（総合的包括的な援助および地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について理解する。
- 2) 相談援助の概念と範囲について理解する。
- 3) 相談援助の理念について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション 精神保健分野における相談援助の体系①
- 第2回 精神保健分野における相談援助の体系②
- 第3回 精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念と範囲①
- 第4回 精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念と範囲②
- 第5回 精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念と範囲③
- 第6回 精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念と範囲④
- 第7回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲 ①第1節
- 第8回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲 ②第2節
- 第9回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲 ③第2節
- 第10回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲 ④第3節
- 第11回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 ①第1節
- 第12回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 ②第2節
- 第13回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 ③第3節
- 第14回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 ④第4節
- 第15回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 ⑤まとめ

【授業実施方法】 講義。必要に応じて資料配布する。

【授業準備】 講義内容を踏まえ、精神障害者の生活者としての「生きづらさ」や精神保健福祉に関わる現代の問題について、新聞や参考書等を用いて確認すること。

【主な関連する科目】「精神保健福祉制度論」、「精神障害者の課題と支援システム」、「精神保健の課題と支援」

【教科書等】 日本精神保健福祉士養成校協会 新・精神保健福祉士養成講座 3「精神保健福祉の援助と基盤（基・専門）」第3版 中央法規出版

【参考文献】 田中英樹：「精神障害者の自立支援活動」中央法規、東雄司：「精神障害者・自立への道」ミネルヴァ書房、F・P・バイステック：「ケースワークの原則 援助関係を形成する技法」

【成績評価方法】 レポート等提出物 20%、試験 80%で評価する。

【学生へのメッセージ】

精神保健福祉士国家試験受験資格を得るためには、全員が履修する科目であり精神障害者の専門職として相談援助に必要な基礎を学ぶため、予習・復習をして臨むことが必要である。